

様式1 平成30年度 山梨県立笛吹高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成 ◎広い視野をもち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成
-----------	--

山梨県立笛吹高等学校校長 若林 喜久男

本年度の重点目標	1. 魅力ある授業の工夫をとおして、学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかる。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	2. 日常的な教育活動をとおして、良好な人間関係と規範意識の醸成をはかる。		B	概ね達成できた。(6割以上)
	3. キャリア教育を推進し、各々の適性に応じた進路の実現をはかる。		C	不十分である。(4割以上)
	4. 笛吹市との包括連携等を活かして、地域課題に取り組む意識と行動力を育てる。		D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価				年度末評価(1月31日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	学習意欲の向上と確かな学力の定着をはかり、魅力ある授業づくりに向けた授業改善の工夫	単元などをまとまりとした評価シートを作成し、授業を通して身につけた力を生徒に評価させ、学習方法の改善や学習意欲の向上を図る。また、それを授業改善や個に応じた指導に役立てる。	【授業アンケート】 【評価シートの活用状況】	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価シートを利用した振り返りの取り組みは教科により差があったものの、アンケートからは教職員生徒とも振り返りが徐々に定着してきていると思われる。</li> <li>主体的対話的で深い学びに向けた授業改善への取り組みは、教員の自己評価が前年度比で低い結果であったが、中間評価からは少しずつ上昇傾向が見られる。</li> <li>授業アンケートを2回生徒に実施した。全教員の結果をデータ化して、自己の授業における長所や短所を確認できるようにして、授業改善に向けたヒントの提示を行った。</li> <li>相互授業参観期間を2年2回計8週間設けたが、参観する機会を積極的に活用する教員の割合は少なかつた。</li> <li>「今未来手帳」を使う場面を意識的につくり、生徒に記入させたあと定期的に確認するなどの状況把握に努めたが、生徒の自主的な手帳利用までは達成できていない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科で使用している評価シートを共有化して、他の教科でも活用できるように、教員間での情報交換を活発にする。</li> <li>目標と振り返りを各教科で実施していき、学力の定着率を上昇させる。</li> <li>定期的な教科会議を実施して、先生方の授業実践を研究したり、相互授業参観を積極的にに行い、各自の授業改善に結びつける。</li> <li>主体的対話的で深い学びの実現に向けて、生徒同士が話し合う機会や発表する機会を授業内に積極的に取り入れる。</li> <li>「今未来手帳」の活用方法について、継続的に指導していく。学校行事等の場面でも、手帳に記入させる時間を設定して、生徒自身が有効に活用している事を実感させられるような取り組みをしていく。</li> </ul>
		「やまなしスタンダード」7つの視点の実践に向け、相互授業参観等を通じ、教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりにチームとして取り組む。	【授業アンケート】 【相互授業参観の状況】			
		個別面談や「今未来手帳」の活用を通じて、学習状況等の把握に努める。また、生徒に学習目標を持たせ学習意欲を喚起する。	【今未来手帳活用状況】 【二者懇談の機会の確保】			
2	良好な人間関係と規範意識の醸成を目指した、日常的な教育活動の工夫	挨拶指導の徹底や言葉遣い・聞き方の指導を通じて、社会の中で良好な人間関係を作り上げるための基本的マナーを身につけさせる。	【登校指導の実施】 【学年・学科集会など様々な場面での指導】	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導では、年3回PTA役員・会員の協力で積極的な声かけや安全マナーの高揚指導を行った。生活委員による朝のあいさつ運動も実施した。毎朝の登校指導からあいさつをする生徒も徐々に増えてきていると感じる。</li> <li>今年度から取り組んでいる部活動の「ガイドライン」は、徐々に浸透してきたが、まだまだ対応して不十分な部分も多い。</li> <li>地域交流行事やボランティア活動については、一部の部活動等での活動にとどまり、全体での活動にまで広がっていなかったため、評価が低かった。</li> <li>生徒の学校生活その他の状況について、毎週金曜日に管理職・分掌主任・学年主任で情報共有し対応策を検討・実施してきた。</li> <li>いじめアンケートによる情報共有の場として、いじめに関する学年会議を年3回設定して実施した。早期発見の取り組みとしては機能したが、未然防止としての対策は不十分であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>笛吹市のスローガンである「あいさつ・聞き方・言葉遣い」の基本的マナーの高揚に向けて更なる指導が必要である。全教職員が全生徒に身に付けさせる。共通認識のもとで指導していく。</li> <li>教職員と保護者との連携を充実させて、素早い対応や保護者の協力を得られるような体制を整えていく。</li> <li>文化庁からも部活動ガイドラインが出されたので、県の指針に基づき、校内の活動指針を教職員や生徒に徹底し、生徒が学業と部活動の両立という目標を達成できるようにする。</li> <li>毎週金曜日の情報共有が各学年でも共有できるよう、教職員間での連絡・報告・相談の徹底をはかり、いじめ等の早期発見に努める。</li> <li>道徳教育の充実や、スマホ利用等の各種講演会を充実させて、いじめ等の未然防止の対策を取り入れていく。</li> </ul>
		学校行事・部活動・地域交流など、多くの人と関わり合い良好な人間関係を形成する場面を設ける。	【部活動の活性化】 【学校生活の充実感】 【地域交流の活動状況】			
		教職員間の共通理解及び保護者との連携を図り、良好な人間関係と規範意識を醸成する。	【教職員間の情報共有】 【保護者への情報発信】			
3	各々の適性に応じた進路を実現するためのキャリア教育の実践	「総合的な学習の時間」「LHR」「産業社会と人間」等を活用し、外部機関等と連携しながら効果的なキャリア教育を行う。	【計画的な進路ガイダンスの実施】 【地域社会への関心度】	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育推進研究指定校1年目として、山梨学院短期大学、健康科学大学、県立農業大学の連携や、総合学科の7&amp;1ホールディングス研修センター見学会、建設現場見学会、保育実習など、外部との連携によるキャリア教育を計画的に実施できた。</li> <li>今年度から普通科を加えた1年生全員のインターンシップを実施し、職業観を養う機会にすることができ、生徒保護者の評価は高かった。また、2年生で上級学校のオープンキャンパスに参加することにより、自己の適性を考える機会にもなった。</li> <li>土曜講座、長期休業課外、小論文講座に加え、今年度は公務員講座で外部講師を校内に招聘して実施した。学年と連携をはかり、生徒のニーズに沿うように努め、参加生徒も増加した。</li> <li>学校ホームページを10月にリニューアルした。学校の最新情報を、「お知らせ」「学校行事」「教育活動」「部活動」等の分野別に迅速に発信することができるようにして、リアルタイムでの情報発信を行ってきた。</li> <li>笛吹高校通信を年3回(6.10.2月)発行、生徒に配付して校内での活動内容の紹介と目的意識向上を図った。また市内中学生や市外の中学3年生にも配付した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育研究推進指定校2年目として、外部関係機関との連携によるキャリア教育や笛吹市との包括連携事業を、PDCAサイクルを活用して、更に充実、発展させていく。</li> <li>1学年全員のインターンシップを継続し、前年度の反省点を改善して、参加生徒の更なる職業観の育成や学習意欲の向上に繋げていく。</li> <li>進路関係行事については、より良いものになるように実施回数、実施時期等を検討し、学年と連携を図り、参加生徒の更なる学習意欲向上に繋げていく。</li> <li>HPへの投稿は、個人情報に注意しながら、各分掌・学年・部活動で積極的に今後も発信していく。</li> <li>HPへの投稿は、個人情報に注意しながら、各分掌・学年・部活動で積極的に今後も発信していく。</li> <li>笛吹高校通信を計画的・継続的に発行して、前年度と同様に本校の情報を中学生に発信するとともに、笛吹市内の各自治会等へも発信して、本校のPRを行っている。</li> </ul>
		インターンシップやオープンキャンパス等を有効に活用し、社会の一員としての職業観を養い、将来の職業選択の基盤を作る。	【事前・事後指導の充実】			
		土曜講座、長期休業課外、小論文講座、各種検定など生徒のニーズに応じた学習機会を設け、積極的な参加を促す。	【多様な学習機会の提供】			
4	具体的な学習の場面において、学んだことを積極的に生かし、他者と連携・協同しながら課題解決する力を育む	地域の外部行事を積極的に伝達するとともに、その行事等を企画の段階から自主的に取り組み、社会参画の場面を工夫し、成就感や自信が持てる実践的な取り組みを行う。	【生徒会活動の充実】 【広報活動の充実】 【笛吹市との包括連携による活動】	<ul style="list-style-type: none"> <li>野球部の毎週月曜日の地域清掃活動や、吹奏楽部、フォークダンス部、翠樟太鼓部などの地域施設訪問など、各部で工夫して社会参画の場面を作っていた。</li> <li>笛吹市の広報誌「広報ふえふき」に本校の情報を計6回掲載してもらい、本校の様子等をアピールすることができた。</li> <li>笛吹市との包括連携による活動では、いくつかの学科、分掌での活動にとどまり、学校全体による活動がなかった。</li> <li>2年生の行事であるウェルカム笛吹では、植花作業をすることで地域貢献への意識を醸成することができた。</li> <li>フェスタ笛吹は、保護者・地域から期待され、定着した行事となってきた。生徒が自主的・積極的に行動する場面も多く見られ好評であった反面、祭り感覚で地域貢献意識が希薄な生徒も見られた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部活動で、社会参画の場面を今後も工夫して、生徒が自信や成就感を持てる取り組みを計画・実施していく。</li> <li>笛吹市と連携を図る中で、本校の様子を広報誌に今後も掲載してもらおうようにする。</li> <li>ウェルカム笛吹では、植花作業のみの意識しかない生徒もいるので、地域貢献が実感できるような工夫も必要である。</li> <li>フェスタ笛吹では、地域との連携や連帯感という面で実感が薄い。模擬店等で地域の食材を使ったり、地域の方と一緒に行うような企画も検討して、生徒・地域が一体となり、生徒の地域貢献意識を醸成出来るような工夫も必要である。</li> </ul>
		ウエルカム笛吹・フェスタ笛吹の行事を通じ、地域社会の一員としての所属感や連帯感をさらに強く持てるよう育成する。	【フェスタ笛吹への主体的な取り組み】 【外部への積極的なPR】			
		生徒や保護者への情報提供を充実させ、進路意識や目的意識を高める。	【各種便り、HP等の充実】			

学校関係者評価	
実施日(平成31年2月18日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を受けている生徒は、誰もが前向きで楽しそうな様子であった。教師と生徒の間に、評価のギャップがあるようだが、生徒の肯定的評価の数値を見ると、先生方の授業改善に向けた工夫は、生徒に伝わっているものと考ええる。</li> <li>授業、単元の振り返りや主体的な活動を更に充実していけると良いだろうと考えます。自分で考え行動する力を一層育む必要を感じます。</li> <li>「今未来手帳」の活用は、生徒の肯定的評価が昨年度より高くなっていることから、手帳を活用することで、学習目標の把握や学習意欲の喚起に効果があったものと考えます。今後のさらなる活用を期待したい。</li> <li>「今未来手帳」については、教職員の評価が低くなっている事を実感させられるような取り組みをしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で出会う生徒のほとんどが、気持ちの良いあいさつをしてくれたり、礼儀正しく対応してくれた。日頃の指導の成果であると感じていた。</li> <li>徹底した挨拶、マナーの教育を望みます。それが何故必要か、といったところから動機づけ出来ればと思います。生徒個人差が目立ちます。</li> <li>地域の交流行事やボランティア活動等への参加についての評価が低いが、これらの場を学校として設定することは難しいことであるため、仕方ない気もする。</li> <li>全般的に肯定的評価を受けているので引き続き取り組みを期待しています。</li> <li>人間関係論、コミュニケーション論の基礎的な授業があっても良いかと考えます。うまくスクールカウンセラーを活用していただきたいです。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルバイトの位置づけが「家計の助け」では無く「実社会の「経験」となると良いと思います。「働く」ことの意味と意義を高校生の内に体験することは、自分を知り、生きることの意欲にもつながるものと考えます。</li> <li>ワイン造りや加工食品、野菜づくり、花作りなど、生徒達の今後の進路に役立つ取り組みが数多くあることに、改めて驚いた。</li> <li>常にいろいろなことに商戦使用としている学校体制や、いろいろな方法で学校の情報を発信しようとしている姿は、生徒にとっても大きな刺激になっていると思う。</li> <li>「インターンシップやオープンキャンパス等は、将来の職業選択に役立っていますか」については全体的に高評価となっているので、引き続き取り組んでいただきたいと思います。</li> <li>「土曜講座、長期休業課外、小論文講座などの内容及び回数は適切ですか」については、先生方の評価の向上に努めていただきたいと感じました。</li> <li>笛吹高校の積極的かつ創造的なキャリア教育は、今後、生徒の進路選択に大きな成果となって表れると考えます。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>市との連携については、教員や生徒が成果を実感するためには、内容や回数など、限られた条件の中では難しいと思われる。</li> <li>フェスタ笛吹については、生徒の企画運営、自ら考えて行動する姿を見せていただきました。今後も期待すると共にできる限り応援していきたいと思っています。</li> <li>フェスタ笛吹では、駐車場係や案内役など、初々しいコミュニケーションながら、積極的に連携に関わっている陽子が拝見でき、うれしく思いました。一方、販売品をつくっている裏側の生徒達は、まじりと主体性が感じられず残念に思いました。「自信」を持てる良いですね。</li> <li>フェスタ笛吹については、教員や生徒の肯定的評価が思っていたより低く意外であった。保護者の肯定的意見が高いのと同じように、学校外の私からは十分な取り組みであると感じていたからだ。学校は地域貢献意識の薄さを課題としているが、学校行事を地域との連携や連帯につなげようとする姿勢は、とても意義あるものであると考える。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。